

## 令和4年度 琉球大学2次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・農・教育学部 令和4年2月25日

- 理・工・医・教育 [数学] 学部 ① ② ③ ④ 数I・II・III・A・B (120分)
- 農・教育 (学校教育 [教育実践学・技術・特別支援], 生涯教育 [自然環境科学]) 学部 ⑤ ⑥ 数I・II・A・B (60分)

①  $x > 0$  の範囲で, 関数  $f(x)$  を

$$f(x) = -\frac{1}{x^2} + \frac{2}{x}$$

と定め,  $y = f(x)$  で表される曲線を  $C$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1)  $f(x)$  の極値を求めよ.
- (2) 曲線  $C$  の接線で, 点  $(0, 1)$  を通り, 傾きが負であるものを  $l$  とする. 直線  $l$  の傾きを求めよ.
- (3) 曲線  $C$  と直線  $l$  で囲まれた部分の面積を求めよ.

②  $d$  と  $n$  を正の整数とする. 1 から  $n$  までの  $d$  乗の和を  $S_d(n) = 1^d + 2^d + \cdots + n^d$  とおく. 次の問いに答えよ.

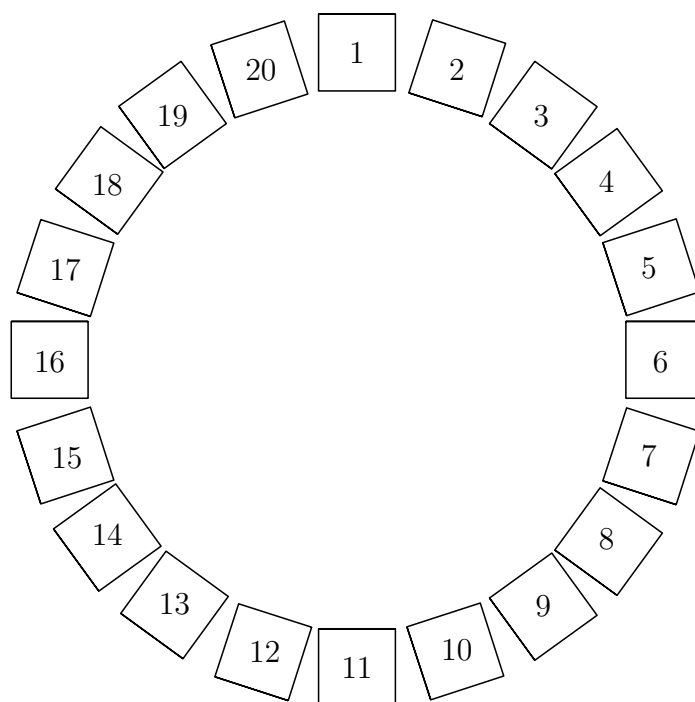
- (1) すべての正の整数  $n$  について,  $S_3(n) = \frac{n^2(n+1)^2}{4}$  が成り立つことを, 数学的帰納法を用いて証明せよ.
- (2) 恒等式  $k^3(k+1)^3 - (k-1)^3k^3 = 6k^5 + 2k^3$  を利用して,  $S_5(n)$  を求めよ.
- (3) すべての正の整数  $n$  について,  $24S_7(n)$  は整数  $n^2(n+1)^2$  で割り切れることを示せ.

③ 一辺の長さが1の正四面体  $OABC$  において, 辺  $OA$  を  $2:1$  に内分する点を  $D$ , 辺  $OB$  を  $1:2$  に内分する点を  $E$  とする. 辺  $OC$  上に点  $P$  をとり, 線分  $OP$  の長さを  $t$  とおく. 次の問いに答えよ.

- (1)  $\cos \angle EDP$  を  $t$  を用いて表せ.
- (2) 点  $P$  が辺  $OC$  上を動くとき,  $\cos \angle EDP$  の最大値と最小値を求めよ.

4 次の問いに答えよ.

- (1) 1 から 9 までの自然数の中から,  $1 \leq a_1 < a_2 < a_3 \leq 9$  を満たすように 3 つの数を選び, それを  $(a_1, a_2, a_3)$  とする. このような 3 つの数  $(a_1, a_2, a_3)$  の選び方のうち,  $a_2 - a_1 \geq 3$  かつ  $a_3 - a_2 \geq 3$  を満たすものは全部で何通りあるか.
- (2) 1 から 50 まで自然数の中から,  $1 \leq a_1 < a_2 < a_3 \leq 50$  を満たすように 3 つの数を選び, それを  $(a_1, a_2, a_3)$  とする. このような 3 つの数  $(a_1, a_2, a_3)$  の選び方のうち,  $a_2 - a_1 \geq 10$  かつ  $a_3 - a_2 \geq 10$  を満たすものは全部で何通りあるか.
- (3) 1 番から 20 番までの番号が書かれた座席が, 図のように円形に並んでいる. この中から, 2 つ以上の間隔を空けて 3 つの座席を選ぶ (例えば, 1 番を選んだときは 2 番, 3 番, 19 番, 20 番は選べない). このような 3 つの座席の選び方は全部で何通りあるか.



5 次の問いに答えよ.

- (1)  $\tan \alpha = 5$  のとき  $\sin 2\alpha$  を求めよ.
- (2)  $n$  を正の整数とする.  $n$  を二進法で表すと 2022 桁である. このとき,  $n$  を十進法で表すと何桁になるか. ただし  $\log_{10} 2 = 0.3010$  とする.
- (3)  $a, b$  を実数とする. 整式  $f(x)$  と整式  $g(x)$  をそれぞれ

$$f(x) = x^4 + ax^2 - 2x + 3, \quad g(x) = x^2 + x + b$$

と定める.  $f(x)$  が  $g(x)$  で割り切れるような実数の組  $(a, b)$  をすべて求めよ.

6 座標平面上の 2 つの放物線

$$C_1 : y = -x^2 + 2x, \quad C_2 : y = 2x^2 - 4x + 9$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) 放物線  $C_1$  と放物線  $C_2$  の両方に接する直線は 2 つ存在する. 放物線  $C_1$  と放物線  $C_2$  の両方に接する直線の方程式を 2 つとも求めよ.
- (2) (1) で求めた 2 つの直線および放物線  $C_1$  で囲まれた部分の面積を求めよ.

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad f(x) = -\frac{1}{x^2} + \frac{2}{x} \text{ より } f'(x) = \frac{2}{x^3} - \frac{2}{x^2} = \frac{2(1-x)}{x^3}$$

したがって、 $x > 0$ における  $f(x)$  の増減表は

$x$	(0)	...	1	...
$f'(x)$		+	0	-
$f(x)$		↗	1	↘

よって 極大値  $f(1) = 1$

(2)  $C$  上の点  $\left(t, -\frac{1}{t^2} + \frac{2}{t}\right)$  における接線の方程式は

$$y = \left(\frac{2}{t^3} - \frac{2}{t^2}\right)(x-t) - \frac{1}{t^2} + \frac{2}{t}$$

これが点  $(0, 1)$  を通るから

$$1 = -\frac{2}{t^2} + \frac{2}{t} - \frac{1}{t^2} + \frac{2}{t} \quad \text{整理すると} \quad 1 = -\frac{3}{t^2} + \frac{4}{t}$$

したがって  $t^2 - 4t + 3 = 0$  ゆえに  $t = 1, 3$

$$f'(1) = 0, \quad f'(3) = -\frac{4}{27} \text{ より, 求める } l \text{ の傾きは } -\frac{4}{27}$$

(3)  $l$  は点  $(0, 1)$  を通り、傾き  $-\frac{4}{27}$  の直線であるから  $y = -\frac{4}{27}x + 1$

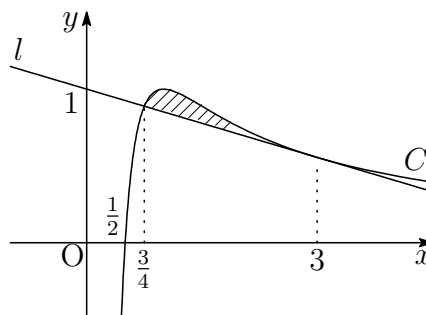
$C$  と  $l$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$-\frac{1}{x^2} + \frac{2}{x} = -\frac{4}{27}x + 1 \quad \text{整理すると} \quad 4x^3 - 27x^2 + 54x - 27 = 0$$

したがって  $(x-3)^2(4x-3) = 0$  ゆえに  $x = 3, \frac{3}{4}$

求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_{\frac{3}{4}}^3 \left(-\frac{1}{x^2} + \frac{2}{x} + \frac{4}{27}x - 1\right) dx \\ &= \left[\frac{1}{x} + 2\log x + \frac{2}{27}x^2 - x\right]_{\frac{3}{4}}^3 \\ &= 4\log 2 - \frac{21}{8} \end{aligned}$$



■

$$\boxed{2} \quad (1) \quad (A) \quad S_3(n) = \frac{n^2(n+1)^2}{4}$$

$$[1] \quad n=1 \text{ のとき} \quad S_3(1) = \frac{1^2(1+1)^2}{4} = 1^3$$

よって、 $n=1$  のとき、(A) は成立する。

$$[2] \quad n=k \text{ のとき、(A) が成立すると仮定すると} \quad S_3(k) = \frac{k^2(k+1)^2}{4}$$

$$\begin{aligned} S_3(k+1) &= S_3(k) + (k+1)^3 = \frac{k^2(k+1)^2}{4} + (k+1)^3 \\ &= \frac{(k+1)^2\{k^2 + 4(k+1)\}}{4} = \frac{(k+1)^2(k+2)^2}{4} \end{aligned}$$

よって、 $n=k+1$  のときも (A) は成立する。

[1] , [2] より、すべての自然数  $n$  について、(A) は成立する。

$$(2) \quad k^3(k+1)^3 - (k-1)^3k^3 = 6k^5 + 2k^3 \text{ および } k^3 = S_3(k) - S_3(k-1) \text{ より}$$

$$k^5 = \frac{1}{6}\{k^3(k+1)^3 - (k-1)^3k^3\} - \frac{1}{3}\{S_3(k) - S_3(k-1)\}$$

$$S_5(n) = \sum_{k=1}^n k^5 \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} S_5(n) &= \frac{1}{6} \sum_{k=1}^n \{k^3(k+1)^3 - (k-1)^3k^3\} - \frac{1}{3} \sum_{k=1}^n \{S_3(k) - S_3(k-1)\} \\ &= \frac{1}{6}n^3(n+1)^3 - \frac{1}{3}S_3(n) = \frac{1}{6}n^3(n+1)^3 - \frac{1}{3} \cdot \frac{n^2(n+1)^2}{4} \\ &= \frac{1}{12}n^2(n+1)^2\{2n(n+1) - 1\} = \frac{1}{12}n^2(n+1)^2(2n^2 + 2n - 1) \end{aligned}$$

$$(3) \quad k^4(k+1)^4 - (k-1)^4k^4 = 8k^7 + 8k^5 \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n \{k^4(k+1)^4 - (k-1)^4k^4\} &= 8 \sum_{k=1}^n k^7 + 8 \sum_{k=1}^n k^5 \\ n^4(n+1)^4 &= 8S_7(n) + 8S_5(n) \end{aligned}$$

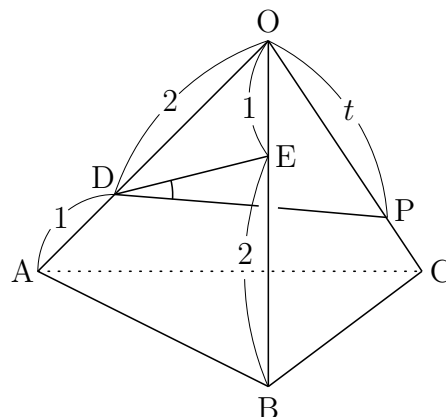
したがって

$$\begin{aligned} 24S_7(n) &= 3n^4(n+1)^4 - 24S_5(n) \\ &= 3n^4(n+1)^4 - 2n^2(n+1)^2(2n^2 + 2n - 1) \\ &= n^2(n+1)^2\{3n^2(n+1)^2 - 2(2n^2 + 2n - 1)\} \end{aligned}$$

よって、 $24S_7(n)$  は整数  $n^2(n+1)^2$  で割り切れる。 ■

3 (1)  $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ ,  $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$  とおくと

$$\begin{aligned} |\vec{a}| &= |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1, \\ \vec{a} \cdot \vec{b} &= \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = 1 \cdot 1 \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}, \\ \overrightarrow{OD} &= \frac{2}{3}\vec{a}, \quad \overrightarrow{OE} = \frac{1}{3}\vec{b}, \quad \overrightarrow{OP} = t\vec{c} \end{aligned}$$



したがって

$$\begin{aligned} \overrightarrow{DE} &= \overrightarrow{OE} - \overrightarrow{OD} = \frac{1}{3}\vec{b} - \frac{2}{3}\vec{a}, \\ \overrightarrow{DP} &= \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OD} = t\vec{c} - \frac{2}{3}\vec{a} \end{aligned}$$

これから

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{DE}|^2 &= \frac{1}{9}|\vec{b}|^2 - \frac{4}{9}\vec{a} \cdot \vec{b} + \frac{4}{9}|\vec{a}|^2 = \frac{1}{9} - \frac{2}{9} + \frac{4}{9} = \frac{1}{3}, \\ |\overrightarrow{DP}|^2 &= t^2|\vec{c}|^2 - \frac{4}{3}t\vec{c} \cdot \vec{a} + \frac{4}{9}|\vec{a}|^2 = t^2 - \frac{2}{3}t + \frac{4}{9} \\ \overrightarrow{DE} \cdot \overrightarrow{DP} &= \frac{1}{3}t\vec{b} \cdot \vec{c} - \frac{2}{3}t\vec{c} \cdot \vec{a} - \frac{2}{9}\vec{a} \cdot \vec{b} + \frac{4}{9}|\vec{a}|^2 = -\frac{1}{6}t + \frac{1}{3} \end{aligned}$$

したがって

$$\cos \angle EDP = \frac{\overrightarrow{DE} \cdot \overrightarrow{DP}}{|\overrightarrow{DE}| |\overrightarrow{DP}|} = \frac{-\frac{1}{6}t + \frac{1}{3}}{\sqrt{\frac{1}{3}} \sqrt{t^2 - \frac{2}{3}t + \frac{4}{9}}} = \frac{\sqrt{3}(2-t)}{2\sqrt{9t^2 - 6t + 4}}$$

(2)  $f(t) = \frac{\sqrt{3}(2-t)}{2\sqrt{9t^2 - 6t + 4}}$  ( $0 \leq t \leq 1$ ) とおいて,  $f(t)$  を微分すると

$$\begin{aligned} f'(t) &= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{(-1)\sqrt{9t^2 - 6t + 4} - (2-t) \cdot \frac{9t-3}{\sqrt{9t^2 - 6t + 4}}}{9t^2 - 6t + 4} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{-(9t^2 - 6t + 4) - (2-t)(9t-3)}{(9t^2 - 6t + 4)^{\frac{3}{2}}} = \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{2-15t}{(9t^2 - 6t + 4)^{\frac{3}{2}}} \end{aligned}$$

$t$	0	...	$\frac{2}{15}$	...	1
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\nearrow$	$\frac{\sqrt{7}}{3}$	$\searrow$	$\frac{\sqrt{21}}{14}$

よって 最大値  $f\left(\frac{2}{15}\right) = \frac{\sqrt{7}}{3}$ , 最小値  $f(1) = \frac{\sqrt{21}}{14}$  ■

- 4 (1) 5個の石を横1列に並べ、その中から3つ選び、選んだ3つの石を左から  $a_1, a_2, a_3$  とする。このとき、 $a_1$  と  $a_2$  および  $a_2$  と  $a_3$  の間にそれぞれ石を2個ずつ追加する操作を考える。これら9個並んだ石の配置について、 $a_1, a_2, a_3$  を左から数えた順番とすればよいから、求める場合の総数は

$${}_5C_3 = 10 \text{ (通り)}$$

- (2) 32個の石を横1列に並べ、その中から3つ選び、選んだ3つの石を左から  $a_1, a_2, a_3$  とする。このとき、 $a_1$  と  $a_2$  および  $a_2$  と  $a_3$  の間にそれぞれ石を9個ずつ追加する操作を考える。これら50個並んだ石の配置について、 $a_1, a_2, a_3$  を左から数えた順番とすればよいから、求める場合の総数は

$${}_{32}C_3 = 4960 \text{ (通り)}$$

- (3) 座席が横1列のとき、条件を満たす場合の総数は(1)と同様にして

$${}_{16}C_3 = 560 \text{ (通り)}$$

座席が円形であるため、この中から  $(a_1, a_3) = (1, 20), (1, 19), (2, 20)$  の場合を除けばよい。

$(a_1, a_3) = (1, 20)$  のとき  $a_2 = 4, 5, \dots, 17$  の14通り

$(a_1, a_3) = (1, 19)$  のとき  $a_2 = 4, 5, \dots, 16$  の13通り

$(a_1, a_3) = (2, 19)$  のとき  $a_2 = 5, 6, \dots, 17$  の13通り

よって、求める場合の総数は

$$560 - (14 + 13 + 13) = 520 \text{ (通り)}$$



$$\boxed{5} \quad (1) \quad 1 + \tan^2 \alpha = \frac{1}{\cos^2 \alpha} \text{ より } \cos^2 \alpha = \frac{1}{1 + \tan^2 \alpha} = \frac{1}{1 + 5^2} = \frac{1}{26}$$

$$\text{よって } \sin 2\alpha = 2 \sin \alpha \cos \alpha = 2 \tan \alpha \cos^2 \alpha = 2 \cdot 5 \cdot \frac{1}{26} = \frac{5}{13}$$

(2)  $n$  は 2 進法で表すと 2022 桁であるから

$$2^{2021} \leq n < 2^{2022} \quad \text{ゆえに} \quad 2021 \log_{10} 2 \leq \log_{10} n < 2022 \log_{10} 2$$

$$2021 \log_{10} 2 = 608.321, \quad 2022 \log_{10} 2 = 608.622 \text{ より}$$

$$608 \leq \log_{10} n < 609 \quad \text{ゆえに} \quad 10^{608} \leq n < 10^{609}$$

よって  $n$  は **609** 桁

(3)  $f(x)$  を  $g(x)$  で割ると

$$f(x) = g(x)(x^2 - x + a - b + 1) + (2b - a - 3)x + 3 - b(a - b + 1)$$

$f(x)$  が  $g(x)$  で割り切れるから

$$2b - a - 3 = 0, \quad 3 - b(a - b + 1) = 0 \quad (*)$$

上の第 1 式から  $a = 2b - 3 \quad \dots \textcircled{1}$

$\textcircled{1}$  を  $(*)$  の第 2 式に代入すると

$$3 - b(b - 2) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (b + 1)(b - 3) = 0$$

$\textcircled{1}$  より  $b = -1$  のとき  $a = -5$ ,  $b = 3$  のとき  $a = 3$

よって  $(a, b) = (-5, -1), (3, 3)$  ■



- 6 (1)  $C_1: y = -x^2 + 2x$  と  $C_2: y = 2x^2 - 4x + 9$  の両方に接する直線を

$$l: y = ax + b$$

とする.  $C_1$  と  $l$ ,  $C_2$  と  $l$  の方程式からそれぞれ  $y$  を消去して整理すると

$$x^2 + (a-2)x + b = 0, \quad 2x^2 - (a+4)x + 9 - b = 0$$

これらの2次方程式はともに重解をもつから, 係数について

$$(a-2)^2 - 4b = 0, \quad (a+4)^2 - 8(9-b) = 9 \quad (*)$$

上の2式から  $b$  を消去して整理すると

$$a^2 - 16 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad a = \pm 4$$

(\*) の第1式から,  $a = 4$  のとき  $b = 1$ ,  $a = -4$  のとき  $b = 9$

よって, 求める2直線は  $y = 4x + 1$ ,  $y = -4x + 9$

- (2) (1) で求めた2直線および放物線  $C_1$  で囲まれた部分は, 下の図の斜線部分であり, 直線  $x = 1$  に関して対称であるから, 求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \int_{-1}^1 \{4x + 1 - (-x^2 + 2x)\} dx \\ &= \int_{-1}^1 (x+1)^2 dx = \frac{1}{3} \left[ (x+1)^3 \right]_{-1}^1 = \frac{8}{3} \end{aligned}$$

よって, 求める面積は  $S = \frac{16}{3}$

